

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	20304		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	次世代教育学総論		担当者名	前田 一誠			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、時代が求める、次世代の教育をになう「教師」育成のために、学校教育の現代的課題に焦点を当て学校教育の目的、内容、方法及び教師に関わる基本的問題について考察し、教職に対する理解を深めることを目的とします。

<授業の到達目標>

次世代の教育を担う「教師」に必要な資質能力を身につけるために、現代的教育課題等に対する探究心や学び続ける意識を常に持ち、主体的に考え、解決しようとする態度を身につけることを目標とします。

<授業の方法>

・資料プリントを配布し、それに基づいて講義を進めます。講義内においてレポートを作成し提出することを、出席確認としても扱います。・授業形態は、講義形式だけではなく適宜グループワークやICT機器を活用したプレゼンテーション等の様々な形式を取り入れた授業を行います。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・これからの教育に関するプレゼンテーションの準備：1～2時間程度・これからの教育に関するグループでの発表打合せ：1時間程度・これからの教育に関する発表後の振り返りと修正：1～2時間程度

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー3（豊かな教養と、現代日本の社会と学校教育に関する幅広い知識と、理解する能力を身に付けている）及びディプロマポリシー7（子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成果をめざした生涯学習力を身に付けている）と関連づけられています。豊かなコミュニケーション能力を有し、子どもの未来に対する強い使命感をもち、教師として成長し続ける力の育成をめざします。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義・演習に臨む意欲・姿勢・態度 20%、発表資料（プレゼンテーションの内容と方法・技術） 30%、レポート 50%により判断。
※意欲・姿勢・態度については教員、社会人にとって求められる決定的な資質・能力ですので、各自の意欲・姿勢・態度を出欠と講義と演習中における姿勢を重視して評価します。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に大きな影響を及ぼします。出席の管理は各回の担当教員が行います。

<教科書>

※特にありません。授業内で資料を配布します。

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	次世代に求められる教育とは	授業の概要、授業の進め方、成績評価の方法について
2	現代の教育改革の状況	教育改革の現状とその方法の1つである「表現活動」の教育的価値について ※表現活動（アウトリーチ）演習の事前指導を含む
3	これから求められる教育のあり方（1）	学校教育が抱える課題解決のための方法の1つとして、表現教育を体験する。 ※ヤングアメリカンズにおけるアウトリーチ実習
4	これから求められる教育のあり方（2）	学校教育が抱える課題解決のための方法の1つとして、表現教育を体験する。 ※ヤングアメリカンズにおけるアウトリーチ実習
5	これから求められる教育のあり方（3）	学校教育が抱える課題解決のための方法の1つとして、表現教育のねらいを理解する。 ※ヤングアメリカンズにおけるアウトリーチ実習
6	これから求められる教育のあり方（4）	グループで表現を考えることで、主体的な学習態度を養う。 ※ヤングアメリカンズにおけるアウトリーチ実習
7	これからの学校教育（1）	VTR資料を視聴し、多様な学校教育のあり方に関する情報を得る。
8	これから求められる教育のあり方（5）	グループで表現を考えることで、主体的な学習態度を養う。 ※ヤングアメリカンズにおけるアウトリーチ実習
9	これからの学校教育（2）	グループに分かれて、「未来の学校」を構想し、発表の準備を進める。
10	これから求められる教育のあり方（6）	全体で表現を考え実践することで、主体的な学習態度や協調性、コミュニケーション力を養う。 ※ヤングアメリカンズにおけるアウトリーチ実習
11	これからの学校教育（3）	グループごとに「未来の学校」構想を発表し、意見交流をする。
12	これから求められる教育のあり方（7）	全体で表現を考え実践することで、主体的な学習態度や協調性、コミュニケーション力を養う。 ※ヤングアメリカンズにおけるアウトリーチ実習
13	これからの学校教育（4）	グループごとに修正した「未来の学校」構想を発表し、意見交流をする。
14	これからの学校教育（5）	構想した「未来の学校」をグループごとに全体の前で発表し、意見交流をする。
15	これからの学校教育（6）	本授業を通して学んだことをレポートにまとめて意見交流をする。

科目コード	21111		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教職入門B		担当者名	中西 紘士			○		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

教師という仕事は、成長途上にある無限の可能性を秘めた子どもたちを、教え、育み、そして自分自身も子どもとともに学んでいく、非常にやりがいのある職業である。しかしながら誰もがすぐにできる仕事ではない。「教職入門」では、教師を目指す入り口となる科目であることから、本授業は、漠然と教師になりたいと考えている学生に、専門職としての教職の内容、その難しさと厳しさを、そして、よろこびややりがいを、実際の学校現場での実践、実例を通して学んでいく。これまでの学ぶ（学習者）側から、教える（教授者）側へと視点を変えて学んでいく。

<授業の到達目標>

1. 将来教師となった時、即戦力として通用するための基本的な資質・能力を身につけることができる。2. 自身が本当に教師に向いているのかなどの適性についても、自らを振り返りながら、明らかにし、教師への意欲を言語化することができる。3. 学び続ける教師としての学び方を身につけることができる。

<授業の方法>

各章のテーマに沿って、必要に応じて、それぞれの学校現場で教職経験をもった教員が指導補助に入りながら講義を行っていく。必要に応じて参考書を提示したり、プリントを配布したりして補完していく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書や配付資料等を事前に熟読し、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。前回の内容もしくは事前学習の内容についての小テストを行う。（毎回1時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、パソコンでレポートを作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー6（高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている。）と関連付けられている。現代日本の初等教育に関する幅広い知識を修めるだけでなく、次世代をになう教育者として学び続ける姿勢や思考力、実践力の育成に向けた科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義に臨む意欲・姿勢・態度 20%、レポート 50%・小テスト 30%※意欲・姿勢・態度については教員、社会人にとって求められる決定的な資質・能力である。「教職入門」、においては各自の意欲・姿勢・態度を出欠と講義中における姿勢を重視して評価する。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に大きな影響を及ぼす。

<教科書>

中田正浩・代表編著
『新しい視点から見た教職入門』

<参考書>

適宜資料を提示します

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本授業の目的、目標、計画、講義の概要、指導方法、授業におけるルール、評価方法についての説明
2	教職への道	①教育とは何か、先生とは何かを考える。②教職へ向けてこれからどのようなことを学び、準備していくのか、日本の教員養成制度を理解する。
3	求められる教師像	教師（学校）をとりまく社会の状況から、求められる教師像とそのための資質能力を理解する。
4	教師の仕事（1）～小学校～	小学校教諭の1日（業務内容）を理解する。
5	教師の仕事（2）～幼稚園～	幼稚園教諭の1日（業務内容）を理解する。
6	教師の仕事（3）～中学校・特別支援学校～	中学校・高等学校・特別支援学校教諭の1日（業務内容）を理解する。
7	資質能力の向上をめざした研修	教員研修の目的、目標、内容、方法について知る。
8	教員の身分と服務	服務の根本基準、特徴、監督、職務上の義務、身分上の義務、身分保障について理解する。
9	学級経営	学級づくりの原理と方法について実践事例をもとに理解する。
10	生徒指導	生徒指導上の諸問題と指導のあり方（予防と対処）を理解する。
11	学校教育と社会教育	①学校教育と学校外で行われる教育とのちがいについて考え、学校とは何かを理解する。②校務分掌、職員会議など、学校の組織について理解する。
12	教員採用試験	①教員採用試験とは何か、求められる人物、試験の特徴を知る。②採用試験合格のために準備することを知る。
13	教育実習	教育実習をはじめとするインターンシップの目的、内容、方法、そして実習生として必要とされるルールとマナーについて理解する。
14	教員の問題行動とメンタルヘルス	①教職員の不祥事、教師の精神疾患の事例から、メンタルヘルスのあり方を考える。②不適格教員の事例をもとに、教師としての適性を見つめ直す。
15	まとめ	①これまでの学びをふり振り返り、内容を整理する。②教員免許取得と教員採用試験合格に向けて、見直しをもつ。

科目コード	33302		区分	コア科目		実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	総合的な学習の時間の指導法(初等)		担当者名	三堀 仁		○			
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

総合的な学習の時間の特徴は、学習指導要領にも示されているように、各学校において目標・内容を定めるところにある。このことは、教師一人一人にカリキュラム開発をする力が求められていることにはほかならない。本科目では、小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編をもとに、総合的な学習の時間の特徴や目標及び内容などについて具体的な事例も紹介しながら説明し、総合的な学習の時間の全体計画や単元指導計画を作成する手順や単元展開にあたっての指導方法のポイントを理解できるようにする。また、現代的な課題をどのように取り入れるかについて、ESDや幼小連携を例に説明する。さらに受講者が自分たちで単元開発を行い、カリキュラムデザイナーとしての力をつけるようにする。

<授業の到達目標>

総合的な学習の時間においては、教師にカリキュラム開発する力と探究的な学習を行う指導力が求められる。したがって以下の点を修得することを目指す。1. 総合的な学習の時間のカリキュラムの特性を理解し、単元を開発することができる。2. 探究的な学習過程を理解し、指導計画を立てることができる。3. 授業改善の方法を身に付ける。

<授業の方法>

授業の始めは事前課題をもとにした意見交換等(20分)、次に学習指導要領解説総合的な学習の時間編のポイントを確認しながら読み進め(30分)、教員による具体的な事例の紹介と意見交換等(30分)を行う。授業の最後に本時の授業のポイントを受講者がまとめ(10分)、提出することを基本とする。学習指導要領をよく理解することと、教師による単元開発が特に重要であるため、この点を意識した授業形態とした。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次時の授業に関連する「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」のページに目を通し、疑問点は整理しておく(1時間程度)。復習：本時の授業内容について、整理したり理解を深めたりする(1時間程度)。整理したノートは全授業の最終週に提出する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この授業は教育経営学科のディプロマポリシー7(子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている)、およびディプロマポリシー4(周囲の学校関係者と良好な人間関係を築き、自己の考えを的確に伝えられるコミュニケーション能力を身に付けている)と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中の発表・参加度(授業態度) 40%、授業のリフレクション 30%、レポート・ノート 30%

<教科書>

文部科学省(平成30年2月28日)「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説総合的な学習の時間編」東洋館出版

<参考書>

授業内で紹介する

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション・総合的な学習の時間の目標	総合的な学習の時間の系譜や特徴について理解し、授業の概要を把握することができる。
2	総合的な学習の時間の内容	総合的な学習の時間における内容について理解する。
3	総合的な学習の時間の指導計画の作成	総合的な学習の時間の指導計画の作成について理解する。
4	総合的な学習の時間の年間指導計画・単元計画の作成	総合的な学習の時間の年間指導計画・単元計画について理解する。
5	総合的な学習の時間の学習指導	総合的な学習の時間の学習指導について理解する。
6	総合的な学習の時間の評価・体制づくり	総合的な学習の時間の評価・体制づくりについて理解する。
7	総合的な学習の時間と学級づくり	実践事例をもとに総合的な学習の時間と学級づくりとの関連について理解する。
8	総合的な学習の時間と教育課題	実践事例をもとに総合的な学習の時間による教育課題への対応について理解することができる。
9	総合的な学習の時間と異校種間交流	実践事例をもとに総合的な学習の時間による異校種間交流について理解することができる。
10	総合的な学習の時間のカリキュラム開発	総合的な学習の時間のカリキュラム開発を行うことができる。
11	総合的な学習の時間の単元計画案の作成	総合的な学習の時間の単元計画案を作成することができる。
12	総合的な学習の時間の本時案の作成	総合的な学習の時間の本時案を作成することができる。
13	総合的な学習の時間の単元・本時案の改善	単元・本時案を検討・修正し、より良い授業づくりのための改善を図ることができる。
14	総合的な学習のカリキュラム改善	単元・本時案の改善をもとに、PDCAを意識したカリキュラム改善を行うことができる。
15	まとめ	総合的な学習の時間の特性を理解し、指導法を理解することができる。

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	21208		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	特別活動の指導法(初等)		担当者名	伊住 継行			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、特別活動の意義や内容、指導法についての理解を深め、併せて、特別活動の現状や課題を踏まえて、活性化の具体的な提案を行う実践的指導力の育成を目的とする。

<授業の到達目標>

1 特別活動の全体目標を歴史的・現代的視点から理解する。2 学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事それぞれにおける目標と内容、実践例について理解する。3 学級活動の指導案を書き、指導案に基づいて模擬授業や発表を行うことにより実践的指導力を身に付ける。

<授業の方法>

テキストを中心とし、必要に応じて資料プリントを配布しそれに基づいて授業を進めます。講義内容に関する小テストや授業後のレポートを適宜課します。講義形式だけではなく、模擬授業やグループワークを行います。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習として、教科書の指定された範囲を読み、重要語句の意味を一通り理解する。：1時間程度・授業内容の確認テストの準備をする。：1時間程度

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教育経営学科のディプロマポリシー4（周囲の学校関係者と良好な人間関係を築き、自己の考えを的確に伝えられるコミュニケーション能力を身に付けている。）及びディプロマポリシー7（子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている。）と関連付けられている。特別活動の意義や内容、指導法についての理解を深め、併せて、特別活動の現状や課題を踏まえて、活性化の具体的な提案を行う実践的指導力の育成を目指している。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 25%、グループワークへの参加 25%、レポート課題、定期試験 50%とする。

<教科書>

文部科学省(2018/2/28)

「小学校学習指導要領解説 特別活動編」

文溪堂

文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター(2019/1/17)

みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)(特別活動指導資料)

文溪堂

<参考書>

杉田洋(2017年11月)

「新学習指導要領の展開 特別活動編」

明治図書

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション特別活動の今日的意義について	授業の進め方、評価方法等について理解する。特別活動についての最近の話題から、特別活動の意義を理解する。
2	特別活動とは何か	特別活動の特質・教育的意義について、考察する。それぞれの特別活動の経験と学びについて、討論する。
3	教育課程と特別活動	特別活動の目標・内容・特質などの基本的性格について考察する。明治以降の特別活動の変遷について考察する。
4	生徒指導と特別活動	生徒指導と特別活動との関連を考察する。
5	人間関係づくりと特別活動	子どもたちの人間関係に関わる今日的課題について考察する。特別活動における望ましい人間関係づくりについてグループ討論を行う。
6	社会性の育成と特別活動	子どもたちの社会性に関わる今日的課題について考察する。特別活動における社会性の育成についてグループ討論を行う。
7	学校力・教師力と特別活動	特別活動における「学校力」・「教師力」について、実践例を参考にグループ討論を行う。
8	特別活動の指導と実践①—学級活動—	学級活動の目標と内容について、考察する。指導計画と学習指導案の作成と授業の展開についてのグループ活動を行う。
9	特別活動の指導と実践②—児童会活動—	子供会活動の目標、内容について考察する。指導計画と指導上の配慮事項についてグループ討論を行う。
10	特別活動の指導と実践③—クラブ活動・学校行事—	クラブ活動及び学校行事の目標、内容について考察する。指導計画と指導案の作成、指導上の配慮事項についてグループ活動を行う。
11	特別活動の指導計画と、評価	指導計画と教育課程の関係、計画種類とその立て方等について考察する。
12	学級活動の実践プラン作成①	グループで学級活動の実践プランを作成する。
13	学級活動の実践プラン作成②	グループで学級活動の実践プランを作成し、発表する。
14	学校行事の実践プラン作成①	グループで学校行事の実践プランを作成する。
15	学校行事の実践プラン作成②	グループで学校行事の実践プランを作成し、発表する。

科目コード	21210		区分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	生徒指導・進路指導論(初等)		担当者名	浅田 栄里子			○		
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

生徒指導・進路指導は、教科指導と並んで教師の行う教育活動において重要な位置を占める。本科目では、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けることを目的とする。

<授業の到達目標>

- 1 生徒指導の意義や原理を理解する。
- 2 すべての児童を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。
- 3 児童の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。

<授業の方法>

事前に指定された教科書の範囲を読んでいることを前提として、必要に応じて資料プリントを配布し、それらに基づいて講義を進める。講義後にレポートを作成し提出することを、適宜復習課題として課す。授業形態は、課題に対するグループ討論、グループワーク等を含み、その成果発表を行う。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、教科書の指定された範囲を読み、重要語句の意味を一通り理解しておくこと。(1時間程度) 授業後はレポート課題に取り組むことで、授業内容の整理を行うこと。(1時間程度) 適宜小テストを実施するので、復習をしっかりと行うこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けることを目的とする科目である。教育経営学科のディプロマポリシー2「専門的知識を実践的に修得し、発達等の子どもの理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている」、ディプロマポリシー7「子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている」と関連している。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 25%、グループワークへの参加 25%、レポート課題、定期試験 50%を基に評価する。

<教科書>

文部科学省(2010)

生徒指導提要

<参考書>

河村茂雄編著(2019年2月20日)

生徒指導・進路指導の理論と実際 改訂版

図書文化社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション生徒指導とは	授業の進め方と、生徒指導の意義について
2	生徒指導の今日的課題について	時代の変化により複雑化・多様化する児童をめぐる様々な課題について討論し、生徒指導の重要性を理解する。
3	学校教育と生徒指導	学校教育の中での生徒指導の位置づけと目的、意義と役割について考察する。
4	児童理解について	児童理解について、その意義と方法を理解し、その上での指導について考察する。
5	児童期の発達と心理について	幼児期から児童期、思春期入り口まで、それぞれの発達の特徴と生徒指導の課題を考察する。
6	生徒指導体制の基本について	学校における生徒指導体制の基本的事項についての考察を行う。問題行動と生徒指導の課題についてグループ討論を行う。
7	いじめ問題と生徒指導	いじめ問題を中心に子どもたちの問題行動の背景をとらえ、対応の在り方について、ケーススタディにより、グループ討論を行う。
8	不登校問題と生徒指導	不登校問題を中心に子どもたちの問題行動の背景をとらえ、対応の在り方について、ケーススタディにより、グループ討論を行う。
9	非行問題と生徒指導	非行問題を中心に子どもたちの問題行動の背景をとらえ、対応の在り方について、ケーススタディにより、グループ討論を行う。
10	指導に関する主な法令	学校における懲戒と体罰の関係、その背景としての法令の理解について、考察する。
11	家庭・地域・関係機関との連携	学校と地域が連携した生徒指導のあり方について考える。医療、福祉、社会教育との連携についても考察する。
12	特別支援教育と生徒指導生徒	発達障がいのある児童への対応を中心に、特別な配慮を必要とする児童への生徒指導について、考察する。
13	小学校における進路指導・キャリア教育①	小学校における進路指導・キャリア教育の重要性について考察する。
14	小学校における進路指導・キャリア教育②	学校と家庭、地域が連携したキャリア教育の在り方について、グループ討論を行い、発表する。
15	まとめ	全体のまとめ

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	21321		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	道徳教育の理論及び指導法(初等)		担当者名	伊住 継行			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、小学校における道徳教育の内容や指導法について理解し、小学校の教員として確実に道徳教育の実践を行うために必要な指導力を育成することをめざす。現在、児童の自制心や規範意識の希薄化、生活習慣の確立が不十分であることなど、児童に道徳性が十分身につけていないことが指摘されている。こうした点からも小学校における道徳教育は極めて重要であり、豊かな人間性を育成するための指導力の向上は不可欠のものであると考える。

<授業の到達目標>

特別の教科道徳を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の意義と目標を踏まえ、道徳教育や道徳科の授業の内容と方法について基礎的な知識を学ぶだけでなく、学習指導案の作成や模擬授業の実施等に取り組むことによって実践的指導力を培うことができるようになる。

<授業の方法>

道徳教育の概要や道徳科の指導方法について理解したことをレポートにまとめたり、グループワークで考えを伝え合ったりしながら理解を深める。また、実践的指導力の向上を図るために道徳科の学習指導案を作成する。さらに、道徳科の模擬授業を行い、授業づくりのポイントについて議論する。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前：講義内容の概要を自分なりに把握する努力を行うと同時に、疑問点等を探しておく。(1時間程度) ・事後：その日の授業内容を振り返り、理解しにくかった点等については次の時間に質問を行う準備をしておく。(1時間程度) 授業で学んだことを基に道徳科の学習指導案を作成する。(1～2時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー6(高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている。)とディプロマポリシー7(子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている。)と関連付けられている。道徳教育や特別の教科道徳のねらいや特質を踏まえた指導法について学ぶことを通して、上記のディプロマポリシーに示されている資質・能力を養うことをめざす。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度・レポート 30%、指導案・模擬授業等 30%、定期試験 40%

<教科書>

文部科学省(2018/2/28)

「小学校学習指導要領解説 総則編」(平成29年7月)

廣済堂あかつき

文部科学省(2018/3/1)

「小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編」(平成29年7月)

廣済堂あかつき

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学校における道徳教育	学校における道徳教育の意義
2	道徳教育の歴史	戦前・戦後における道徳教育の変遷と課題
3	道徳教育の目標	教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と特別の教科道徳の目標
4	道徳教育の内容	道徳教育の指導内容と発達に即した内容の系統
5	道徳教育の指導計画(1)	道徳教育の全体計画の意義と内容及び全教育活動における道徳教育の活動の具体
6	道徳教育の指導計画(2)	特別の教科道徳の年間指導計画の意義と内容
7	道徳の授業の実際	道徳の授業の視聴と授業分析
8	道徳の授業の組み立て方(1)	道徳の授業の構想、実態に基づく資料分析とねらいの設定
9	道徳の授業の組み立て方(2)	道徳の授業の指導過程と発問の組み立て方
10	学習指導案の作成(1)	道徳科の学習指導案の作成
11	模擬授業(1)	模擬授業の実施と道徳科の特質を踏まえた授業展開についての議論
12	学習指導案の作成(2)	道徳科の学習指導案の作成
13	模擬授業(2)	模擬授業の実施と道徳科の特質を踏まえた授業展開についての議論
14	家庭・地域との連携	道徳教育における家庭・地域との連携の内容と活動の具体
15	児童理解に基づく道徳教育・道徳科の評価	道徳教育・道徳科における評価の方法と内容

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	21317		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育方法・技術論(初等)		担当者名	長谷浩也、前田一誠、中西紘士			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学習指導要領においては、児童・生徒に「生きる力」をはぐくむこと、つまり、基礎的・基本的な知識と技能の確実な習得と、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成が各教科で目標とされた。この目標は、授業を通して達成されるもの、その授業を支えるものの1つが、教師の「方法・技術」にある。本科目では、実践例をもとにした、方法・技術の具体について学んでいく。

<授業の到達目標>

実際の授業場面において必要となる子どもとの対応に関する方法・技術や教師の指導支援のための方法・技術などを取り上げ、身に付くようにする。受講者による指導プランの作成とその特徴等に関する意見交換も取り入れていく。

<授業の方法>

具体的な方法・技術の例示と演習の繰り返しにより実践力の向上を目指す。単なる一方的な講義ではなく、授業への参画と討論、さらに受講者の模擬授業やプレゼンテーションによる演習を中心とする。意見交換を通して、教育方法・技術について理解を深める。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容の下調べ(ノート) 復習：振り返りレポート(主体性、内容の理解、取り扱った方法・技術に対する見解など) 提示・配布された資料や指導案、教材研究の記録等を整理してまとめ、折に触れて読み返したり、練習したりすること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー(情報機器や教材の活用法を含めた教師の方法・技術論の基本を理解するとともに、それらを適用・応用できるようになることと関連している。子どもの実態、教科内容等を理解した上で、授業を構成し、実践するための基礎的基本的素養を理解し、身につけるための科目である。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題への取り組み、レポート 60%、受講者による模擬授業や意見交換 40% 積極的な話題提供や意見発表は、成績に加算される。

<教科書>

平沢茂 編著

『改訂版 教育の方法と技術』

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の目的、進め方、評価方法についての説明
2	教育方法・技術の内実、変遷、重要性	教育方法・技術についての概要(内実・変遷・重要性)を理解する。
3	方法・技術の具体(1)	教師のほめ方・叱り方について
4	方法・技術の具体(2)	教師の話し方・きき方について
5	方法・技術の具体(3)	ルールについて
6	表現教育と教育方法・技術(1)	表現教育における教育方法・技術論とはどのようなものがあるか、経験をもとに想像し、意見交流する。
7	表現教育と教育方法・技術(2)	表現教育(アウトリーチ活動)を参観し、その中でつかわれている方・技術を見つける。 ※ヤングアメリカンズのキャストによる指導風景を参観
8	表現教育と教育方法・技術(3)	表現教育でつかわれていた方法・技術を分析する。
9	方法・技術の具体(4)	教材の作り方、板書の仕方について
10	方法・技術の具体(5)	ノート、学習プリント等へのコメントの仕方について
11	方法・技術の具体(6)	学習形態について
12	方法・技術の具体(7)	信頼関係の築き方について
13	方法・技術の具体(8)	I C T機器の功罪とその活用法について
14	方法・技術の具体(9)	プログラミング学習
15	ふり返り	授業をふり返って、基本的な教育方法と技術について整理する。

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	22201		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	自然の理解		担当者名	太田 昌孝			○		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

自然の事物・現象に潜む不思議さや巧妙さに着目しながら、小学校で理科の授業を行う上で役に立つ知識や観察・実験の技能を習得する。また、新学習指導要領解説理科編をもとに、「こん虫のなかま」「電気の通り道」「じしゃくの性質」「空を飛ぶおもちゃ」「ふりこの運動」「月と太陽」などの単元で行う観察・実験を行う。その中で、児童に、「自然ってすばらしい」「理科っておもしろい」と実感させる教材の工夫、導入活動、単元構成などを体験する。

<授業の到達目標>

①自然の事物・現象に潜む不思議さやおもしろさに目を向けながら、小学校での理科の授業づくりを行う上で役立つ知識や観察・実験の技能を修得する。②新学習指導要領解説理科編の示されている目標や内容構成の考え方について理解する。・理科で育成する「資質・能力」が3つの柱で示されていること・各学年では、比較(3年)、関係付け(4年)、条件制御(5年)、多面的考え方(6年)等の問題解決で用いる考え方が発達段階によって示されていることなど

<授業の方法>

授業では、まず、学習指導要領解説理科編をもとに、小学校の理科の授業の観察・実験のもとになる教材及び指導方法について学んでいく。ここでいう観察・実験の活動の中で、子どもたちの視点からどのようなことを行うか、教師の視点からどのようなことに留意することが大切かなどの気づきをワークシートに整理する。観察・実験では、小学校の理科の学習で用いる教材に触れながら、体験的に自然の事物・現象に潜む不思議さやおもしろさを学んでいく。加えて、教材作りを中心に授業づくりのおもしろさを学んでいく。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の授業内容をもとに、復習と発展の意味から身近な自然に目を向けた自主レポートを作成する。(30分から1時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

「深い専門性と実践力のある人」を育成するための基礎科目であり、すべての年次生に対し、小学校理科で扱う観察・実験など、自然の事物・現象に潜む不思議さや面白さを体験することを通して、専門的知識を実践的に習得し、子ども理解に基づいた的確な学習指導力(DP2)、豊かな教養と現代日本の社会と学校教育に関する幅広い知識と理解する能力(DP3)を養うための科目である。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%, 授業ワークシート 30%, 定期考査 30%, その他自主レポート等で評価する。

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	「自然の理解」で学ぶこと、「自然の理解」で学ぶこと こん虫のなかまについて調べよう	「自然の理解」で学ぶこと、進め方など、簡単なオリエンテーション第3学年「昆虫と植物」における観察・実験の実際
2	こん虫のからだを作ろう!	第3学年「昆虫と植物」における観察・実験の実際
3	磁石につくものを探そう!	第3学年「磁石の性質」における観察・実験の実際
4	明かりをつけよう!	第3学年「電気の通り道」第4学年「電流の働き」における館s夏・実験の実際
5	理科工作のおもしろさ1	小学校で行われる「理科工作教室」などで人気の空飛ぶおもちゃ作り～紙飛行機、プーメラン、輪っか飛行機など
6	授業の実際1	第6学年「てこのはたらき」の授業DVDを視聴し、問題解決学習の在り方を探る。
7	空気でっぽうを遠くまで飛ばそう!	第4学年「空気と水の性質」における観察・実験の実際
8	ふりが1往復する時間を変える条件を調べよう	第5学年「ふりこの運動」における観察・実験の実際
9	夜空を見上げよう	第4学年「月と星」、第6学年「月と太陽」における観察・実験の実際
10	理科工作のおもしろさ2	小学校で行われる「理科工作教室」で人気のおもちゃホバークラフト、コースターづくり など
11	強い電磁石を作ろう!	第5学年「電流が作る磁石」における観察・実験の実際
12	熱の伝わり方を調べよう!	第4学年「金属・水・空気と温度」の観察実験の実際
13	授業の実際2	第4学年「季節と生き物」の授業DVDを視聴し、問題解決学習の在り方を探る。第2回目
14	理科工作のおもしろさ3	カルメ焼き、べっこうあめの科学
15	講義のまとめ	「自然の理解」を受講して 自然の見方の変化理科の授業づくりへの期待

科目コード	22202		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	社会の理解		担当者名	奥山 優			○		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校社会科の成立史および学習指導要領の変遷と目的・内容、それを踏まえた教科の特質の概要、小学校教員（社会科授業者）として授業を行うための基本的素養を身に付ける。そのために教材内容や社会科的な見方・考え方について、学習指導要領や教科書の具体的記述や実践事例等もとに学びを深める。あわせて、現代的な課題として社会科教育に求められる内容を取り扱う。

<授業の到達目標>

小学校社会科の成立史および学習指導要領の変遷と目的・内容、それを踏まえた学習内容と教科としての特質の理解、小学校教員（社会科授業者）として教材研究を深めるための基本的素養を身に付け、社会科の学習指導に主体的に取り組むことができるようになる。

<授業の方法>

指定した教科書及び配付する資料を活用しながら、双方向（担当者と学生）の授業を目指す。また、学生の着想を生かした教材開発等を発表することなどをおして、社会科教育への関心・意欲を醸成するとともに、グループワークやプレゼンテーション能力の向上を目指す。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業計画の説明や毎時間の課題提示を踏まえて、資料収集等を行い、目的意識、課題意識をもって授業に臨むこと。毎時間に扱う具体的な単元例を予告するので、関連資料の収集を毎回1時間程度させたい。また復習としては、講義ごとのレジュメ（ワークシート）の追加記入等のノート整理を30分程度させる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

「社会科の特質を踏まえた深い学びを理解し、授業実践できる素養」を育成するための基礎科目であり、初年次生に対し、グループワーク等の対話型・双方向型授業を通して、時代性や現代社会の要請の下での社会科成立史、学習指導要領の変遷について幅広い理解を図る中で、社会科的な見方・考え方についての確かな認識のもとに、教材開発や教材研究を深めるための意欲と基本的態度を育成する機会を提供する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・ノート整理 30%、授業ワークシート作成・グループ協議・発表 40%、レポート 30%により総合的に評価する。

<教科書>

文部科学省

小学校学習指導要領解説 社会編

東京書籍

新編 新しい社会 5上

東京書籍

新編 新しい社会 6上

東京書籍

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要（目的・内容・方法など）
2	初等社会科教育の特質	日本における戦後の新教科「社会科」の誕生と教科の特質
3	初等社会科教育の歴史	アメリカにおける社会科の誕生と教育内容・方法の思想
4	初等社会科教育の意義・目的（1）	学習指導要領の変遷と社会科の位置づけ
5	初等社会科教育の意義・目的（2）	問題解決的な学習の展開と意義
6	今求められる初等社会科教育の在り方（1）	新学習指導要領の趣旨と社会科の改訂ポイント
7	今求められる初等社会科教育の在り方（2）	社会科的「見方・考え方」について具体教材を通しての考察
8	今求められる初等社会科教育の在り方（3）	社会科における「主体的、対話的で深い学び」について具体教材を通しての考察
9	今求められる初等社会科教育の在り方（4）	社会科における「思考力・判断力・表現力等」について具体教材を通しての考察
10	初等社会科教育の内容（1）	学習指導要領における内容の改善点の理解第3学年及び生活科との接続
11	初等社会科教育の内容（2）	学習指導要領における内容の改善点の理解第4学年
12	初等社会科教育の内容（3）	学習指導要領における内容の改善点の理解第5学年
13	初等社会科教育の新たな課題（1）	「主権者教育」についての考察と理解第6学年
14	初等社会科教育の新たな課題（2）	「防災教育」、「国際理解教育」についての考察と理解第5学年及び第6学年
15	「社会の理解」まとめ	授業の総括及び「授業評価アンケート」の実施

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	22103		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	美術の理解		担当者名	村上 尚徳			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、美術に関する基礎的な知識や技法などについての理解を深めるとともに、造形指導能力の育成を目的とします。授業においては、色彩や構成、美術文化などに関する基礎的な知識と、絵の具などの技法や技能を身に付けるとともに、美術教育の意義や役割などについて学習をします。美術や美術教育に関する知識と、児童に指導できる基礎的な技能を身に付けることを、学習成果とします。

<授業の到達目標>

1. 色彩や構成などに関する知識、絵の具の技法、絵を描く技術などを身に付けることができる。2. 生活の中の美術や美術文化、美術や美術教育に関する考え方について理解を深めることができる。

<授業の方法>

- 資料の読解や作品鑑賞、美的体験を基にした、グループワーク
- 美術や美術教育に関する基礎的知識を理解するための講義
- 実技による技法や技能の習得、作品の制作及び発表

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 授業前は、事前の資料読解と指示された準備物（資料、材料、用具等）の用意を行う。（1時間程度）2. 授業後は、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じてふり返りのレポートを提出すること。（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教育経営学科のディプロマ・ポリシー2（専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている。）と関連付けられています。美術に関する知識・技能を修め、子供理解に基づいて学習指導を実践するための基礎的な力を育成することを目指しています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 40%、作品及びレポート 40%、授業への積極的参加態度 20%

<教科書>

配布資料により授業を進める。

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	美術の多様性	美術とは何か、美術を学ぶ意義等についての理解
2	見ることと描くこと	見る力と表現する力の関連についての理解
3	造形についての理解	造形要素・造形原理の理解（色彩、構成美の要素）
4	形と色彩による表現(1)	絵の具の扱い（絵の具の水加減、色相環の作成）
5	形と色彩による表現(2)	モダンテクニックの技法の理解
6	形と色彩による表現(3)	モダンテクニックを用いた感情表現（作品の制作）
7	鉛筆による描画の基礎	鉛筆で人物や手を描く
8	水彩絵の具の使い方(1)	水彩絵の具の着彩の基礎
9	水彩絵の具の使い方(2)	水彩絵の具による作品制作
10	美術の幅広い理解(1)	プロダクトデザイン、ことのデザインの理解
11	美術の幅広い理解(2)	西洋美術の歴史と絵画の役割
12	美術の幅広い理解(3)	日本の美術の理解（屏風絵、浮世絵）
13	工作の基礎(1)	飛び出すカードの仕組みの理解
14	工作の基礎(2)	飛び出すカードの制作
15	美術の教育と美術による教育	生活や社会の中の美術や美術文化の理解

科目コード	22204		区分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	運動・健康の理解		担当者名	久田 孝			○		
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の概要は、近代化に伴い社会環境や人々の生活様式は大きく変化、価値観も多様化、このような中で近年、子どもの体力は長期的に低下傾向にある。その解消において生涯にわたって心身ともに健康的に生きていくための基礎的なからだづくりを小学校学習指導要領に基づいて各領域やその特性や楽しむ方法について学んでいく。

<授業の到達目標>

本授業の目標は、健康に対する基礎知識と運動（身体活動）に対する基礎知識を合わせて小学校学習指導要領に基づいて学び、小学校体育科の目標、内容、各運動領域について指導法や考え方など発達段階に応じた、体育の授業を構成していく為の知識や技術を修得することを目的としている。

<授業の方法>

授業では、テーマに沿って理論と実践を並行して行っていく。また必ず運動に適した服装（シューズを含む）で受講。アクセサリなどの装着は厳禁とする。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次時に講義される事柄について教科書を読み、下調べをし自ら積極的に理解を深めておく。（毎回、1時間程度）復習：本時の授業内容を自分の意見も含め、レポートにてまとめ、次週に提出する。（毎回、1時間程度）※Wordで作成したレポートを所定のDropboxに投函に投函すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教育経営学科のディプロマポリシー1、（子どもの学習状況を把握し教科内容等を理解した上で授業を構成し実践するための基礎的基本素養）及び3、（豊かなコミュニケーション能力を有し、子どもの未来に対する強い使命感を持ち、教師としての成長をめざし学び続ける力）と関連付けられています。運動と健康にまつわる様々な諸課題を探索し解決していくのに必要な、論理的思考力、的確な判断力、創造的表現力統合した豊かな汎用能力の習得を目指しています。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

自ら学び修得しようとする意欲、態度、姿勢20%、課題レポート30%、実技試験50%の到達度評価とする。

<教科書>

2014.6

「小学校学習指導要領解説 体育編」

ミネルヴァ書房

2018.5

初等体育科教育

ミネルヴァ書房

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	第1回は本授業のオリエンテーションとし、目標、計画、内容、指導方法、到達目標等の理解を深める。
2	小学校体育科の目標と内容について	小学校学習指導要領 小学校体育科の目標と内容について現代社会の成り立ちから起こる運動不足とその効果について学ぶ。
3	体づくり運動	体ほぐしの運動のように楽しさと心地よさを求める運動と体力を高める為の運動との狙いの違いを実技を通して考えてみる。
4	ボール運動①-1（ゴール型）	ボールゲームからの導入。ミニサッカー、サッカー
5	ボール運動①-2（ゴール型）	ポートボールからの導入。バスケットボール
6	ボール運動②（ベースボール型）	フットベースボールからの導入。ソフトボール
7	ボール運動③-1（ネット型）	ソフトバレーボールから導入。バレーボール
8	ボール運動③-2（ネット型）	卓球・バドミントン
9	陸上運動①（トラック）	リレー・ハードル
10	陸上運動②（フィールド）	三段跳び・五段跳び・走り幅跳び
11	器械運動①-1（マット運動）	器械運動①-1（マット運動）
12	器械運動①-2（マット運動）	技の組み合わせ、連続技の実践
13	器械運動②（跳び箱）	基本技の修得
14	器械運動③（鉄棒）	基本技の修得
15	総括	最終回は本授業を振り返り成果と課題について反省、実践と原理の両面から各種目から見た運動と健康について各自が得た「学び」を確認、その学びを言語化。その為「将来小学校教師として教えたい運動と健康」と言う論題で小論文を作成。将来的な展望を実践に結び付ける。

科目コード	23301	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	教育相談B	担当者名	浅田 栄里子			○			
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育相談は、児童が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。児童の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）、技能、態度を身に付けることを目的とする。

<授業の到達目標>

1 学校における教育相談の意義と理論を理解できる。2 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解できる。3 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解し、実践力を身に付ける。

<授業の方法>

・事前に指定された教科書の範囲を読んでいることを前提として、必要に応じて資料プリントを配布し、それらに基づいて講義を進める。・講義後にレポートを作成し提出することを、適宜復習課題として課す。・授業形態は、課題に対するディスカッションや、個別支援や集団支援の実際の場を想定したロールプレイ等を含み、その取り組み姿勢を評価対象とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習として、教科書の指定された範囲を読み、重要語句の意味を一通り理解しておくこと。（1時間程度）・授業後はレポート課題に取組むことで、授業内容の整理を行うこと。（1時間程度）・適宜小テストを実施するので、復習をしっかりとっておくこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

児童の個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）、技能を身に付けることを目的とする科目である。教育経営学科のディプロマポリシー2「専門的知識を実践的に修得し、発達等の子どもの理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている」、ディプロマポリシー4「周囲の学校関係者と良好な人間関係を築き、自己の考えを的確に伝えられるコミュニケーション能力を身に付けている」と関連している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲 25%、授業レポート・小テスト 25%、定期試験 50%

<教科書>

森田健宏・田爪宏二監修（2018年1月30日）
「よくわかる！教職エクササイズ 教育相談」

<参考書>

藤田哲也監修（2017年10月30日）
「絶対役立つ 教育相談」
ミネルヴァ書房

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション教育相談とは	授業の進め方などについてのガイダンス教育相談についての理解
2	教育相談の意義と校内体制について	教育相談の意義と機能について理解する。校内体制と連携について考察する。
3	カウンセリングの理論	カウンセリングについて、その各種理論の基本を学び、カウンセリングの基本的な考え方について、考察する。
4	カウンセリングの基本的技法	学校カウンセリングの基本的技法を学び、実際に体験ワークを行う。
5	学校における諸問題とその対応①いじめ・不登校への対応	いじめ、不登校の定義と、実態を理解する。いじめ、不登校に対する基本的対応について、考察する。
6	学校における諸問題とその対応②学級崩壊、学級経営の問題への対応	学級崩壊の現状を理解し、学級経営について、考察する。
7	学校における諸問題とその対応③虐待、命の教育への対応	児童虐待の現状とその対応について理解し、命の教育について考察する。
8	学校における諸問題とその対応④非行、学校不適応への対応	非行や学校不適応への理解と対応について、様々な角度から考える。
9	学校における諸問題とその対応⑤発達障害のある児童への対応	発達障害についての基本的知識と、特別支援教育の現状について、理解する。
10	学校における諸問題とその対応⑥心の病についての対応	子どもの困難に寄り添うための基本的な姿勢と対応について、事例を通して学ぶ。
11	校内や専門機関等との連携	校内組織の中での連携や、他機関の専門家との連携について、そのあり方を考える。
12	教育相談におけるアセスメント①行動観察法・面接法	行動観察法、面接法について理解し、他の専門機関との連携を視野にその利用方法を理解する。
13	教育相談におけるアセスメント②心理検査法の利用	各種の心理検査について理解し、その検査結果の見方や、活用方法についての留意点等を理解する。
14	家庭の理解と保護者支援	多様化する家庭の現状と子どもの問題を理解し、保護者対応について考察する。
15	教師のメンタルヘルスについて授業全体のまとめ	バーンアウト（燃え尽き症候群）等精神疾患での休職率の高さなど日本の教師を巡る諸問題について考える。授業全体のまとめ

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	31302		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育評価		担当者名	長谷浩也、三堀 仁			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業は、教育評価の役割や考え方を理解し、教育評価を適切に実践していくために必要な実践力を養うことを目指して行う。具体的には、次の3つの点に留意して授業を行う。(1) 教育評価に関する基礎的な用語や考え方を、歴史的な背景も含めて具体的に講義をする。(2) 新しい評価の考え方をまとめて解説すると共に、それに基づく評価の方法を丁寧に紹介する。(3) 国語科、算数科、道徳科の評価について、事例を交えながら具体的な教育評価の実践について考えを深める。

<授業の到達目標>

教師をめざそうとする学生や教育に興味・関心を持つ学生が、教育評価の方法や考え方について理解を深めると共に、グループでの対話や具体的な実践事例などを通して、適切に教育評価を実践することができるようになることをめざす。

<授業の方法>

指定教科書を用いた講義と、グループワークや討論・発表などの演習を併用するスタイルで授業は展開される。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前：指定教科書の授業内容を通読し、特に理解が難しいところを予習する。(1時間) ・事後：授業で理解したことを自分なりに整理したり、興味・関心をもったことについてさらに学びを深めたりする。(1時間)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教育経営学科のディプロマポリシー2(専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている。)とディプロマポリシー5(情報機器や教材の活用を含めた学習指導方法の基本とともに、問題解決に向かう論理的・批判的思考力を身に付けている。)と関連付けられている。教育評価の基本的な考え方や方法を理解するだけでなく、実際の授業の中で評価を適切に実践することができる実践的指導力を養うことをめざす。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業への参画態度及びグループワークへの参画態度・貢献度 30%、小テスト 30%、定期テスト 40%。なお、定期テストは、指定教科書の持ち込み可とし、理解度や深まり具合を評価する形式で行う。

<教科書>

田中耕治ほか11名(2010年11月20日)

よくわかる教育評価[第2版]

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	教育評価の基本概念	1) 心理測定、2) 教育評価：エバリュエーションとアセスメント、3) 教育評価の次元・目的・主体・対象、4) 教育評価の機能：診断的評価・形勢的評価・総括的評価、5) 学力評価と授業評価、6) カリキュラム評価、7) 教員評価と学校評価
2	教育評価の立場の変遷	1) 絶対評価、2) 相対評価、3) 個人内評価、4) 到達度評価、5) 目的に準拠した評価、6) 評価規準と評価基準
3	教育評価の位相と展開	1) 工学的アプローチと羅生門的アプローチ、2) ゴール・フリー評価、3) 教育鑑識眼と教育批評、4) 真正の評価
4	教育目標と教育評価の関係	1) 教育目標と行動目標、2) 教育目標の分類学、3) 到達目標と方向目標、4) 学力モデルと評価、5) 目標分析、6) スタンダードとクライテリア、7) ルーブリック、8) カリキュラムを縦断・横断する評価
5	指導に生かす評価のあり方	1) 指導と評価の一体化、2) 素朴概念と教育評価、3) カルテと座席表、4) フィードバック、5) 子どもの自己評価、6) 自己評価シート、7) 教育評価への子どもの参加
6	教育評価の実践(国語科)①	国語科における評価の基本的な考え方
7	教育評価の実践(国語科)②	国語科の学習指導過程と評価
8	教育評価の実践(国語科)③	国語科の評価と授業改善
9	教育評価の実践(算数科)①	算数科における評価の基本的な考え方
10	教育評価の実践(算数科)②	算数科の学習指導過程と評価
11	教育評価の実践(算数科)③	算数科の評価と授業改善
12	教育評価の実践(道徳科)①	道徳科における評価の基本的な考え方
13	教育評価の実践(道徳科)②	道徳科の学習指導過程と評価
14	教育評価の実践(道徳科)③	道徳科の評価と授業改善
15	学習の振り返りと深化	グループワーク・メソッドを用いた「これまでの学びを振り返り」および「深化・発展」

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	31400		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	学校経営と学校図書館		担当者名	榎川 亨			○		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校教育目標の達成のために「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を持つ学校図書館が果たす役割について学ぶとともに、児童生徒の学力における課題を克服するために学校図書館をどのように活用していくかについて具体的方法を学ぶ。この授業は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

<授業の到達目標>

司書教諭として学校図書館をどのように運営していくかについて、その具体的な方法を理解する。また、学校図書館を活用して行う読書活動や学習等について運営計画を立案するとともに、具体的な指導を指導者の立場として展開する方法を理解する。

<授業の方法>

スライド資料やワークシート等を用いて授業を進める。多くの授業において個人で取り組む演習やグループで取り組むワークが中心となるので、主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。演習ではパソコンを使って資料を作成するので、個人パソコンの持参が必須である。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

資料等を用いる授業の前には、あらかじめ資料に目を通しておく。（1時間程度）授業後には本時に学習した内容について、問題を解いたり演習の内容について個人で再度行ったりして学習の定着を図る。（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

司書教諭として学校図書館の機能を理解した上で、実際の図書館運営や学校図書館を活用した学習の展開を身につけることにより、学校図書館に関する専門性と実践力を備えた司書教諭の育成を目指す。なお本授業は、教育経営学科のディプロマポリシー2「専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている」及び6「高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている」と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

関心・意欲・態度、演習及びワークショップへの参加と貢献、レポートおよび提出物 50%、確認テスト 50%に基づき評価する。

<教科書>

特になし

<参考書>

全国学校図書館協議会監修
学校図書館必携 改訂版
悠光堂
学習指導要領

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス・学校教育法令と学校経営	学校経営がどのような法令等に基づいて策定されているかを理解する。
2	教育法令と学校図書館	学校教育にかかる様々な法令と学校図書館の位置づけを理解する。
3	学校図書館と学習指導要領	学習指導要領から学校図書館の位置づけを探し、教育課程とのかかわりを理解する。
4	学校図書館の機能と図書標準	学校図書館メディアの種類と、蔵書の標準を知り、学校図書館の機能について考える。
5	学校図書館の運営 (1)	学校図書館運営にかかる業務を理解する
6	学校図書館の運営 (2)	学校図書館運営計画を作成する (1)
7	学校図書館の運営 (3)	学校図書館運営計画を作成する (2)
8	学校図書館の運営 (4)	学校図書館運営計画を作成する (3)
9	学校図書館の運営 (5)	図書館だよりを作成する (1)
10	学校図書館の運営 (6)	図書館だよりを作成する (2)
11	学校図書館の運営 (7)	図書館だよりを作成する (3)
12	学校図書館の運営 (8)	学校図書館展示の工夫 (1)
13	学校図書館の運営 (9)	学校図書館展示の工夫 (2)
14	学校図書館の運営 (10)	学校図書館展示の工夫 (3)
15	まとめ	確認テスト。学校における学校図書館活用の現状と課題を理解し、図書館運営の心構えをつくる。

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	31401		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	学校図書館メディアの構成		担当者名	榎川 亨			○		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校図書館は、児童・生徒の学習活動を促進し教員の教育活動を支援する。学校図書館がその機能を十分発揮するために、学校図書館メディア構成に関して、その収集、組織化、保存、提供などについて学ぶ。この授業は学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成を図ることを目的とする。この授業は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

<授業の到達目標>

①学校図書館メディアの種類と特性を理解する。②学校図書館メディアの選択と収集・構築について理解する。③学校図書館メディアの組織化を理解する。

<授業の方法>

基本的には講義形式であるが、「日本十進分類法」「日本目録規則」などは演習形式にて授業を行う。毎回の授業でレポート・課題を出題する。演習ではパソコンを使って資料を作成するので、個人パソコンの持参が必須である。第15回の講義の中で確認テストを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

シラバスを参考に当日の授業内容を確認し、参考書またはWeb等で予備知識を学習しておくこと（予習30分程度）。毎回の講義時に、レポート課題を出題するので、次回の講義までに自力で解答しておくこと（復習60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学校図書館メディアの構成を学ぶことにより、深い専門性と実践力を身に付けるだけでなく、子ども達への指導力を身に付ける。なお本授業は、教育経営学科のディプロマポリシー5「情報機器や教材の活用を含めた学習指導方法の基本とともに、問題解決に向かう論理的・批判的思考力を身に付けている」及び6「高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている」と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習状況・受講態度 20%、レポート課題 30%、テスト 50%

<教科書>

特になし

<参考書>

小田光宏（2016年2月4日）

司書教諭テキストシリーズⅡ…2 学校図書館メディアの構成

樹村房

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学校図書館メディアの意義	講義ガイダンスを含む
2	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの種類と特性
3	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの選択と情報源（資料の選択、資料収集の方針）
4	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの選択と情報源（収集のための情報源）
5	メディアコレクションの形成	蔵書構築、蔵書評価について
6	学校図書館の責務について	学校図書館の役割について
7	学校図書館メディアの組織化	分類の意義と機能
8	学校図書館メディアの組織化	日本十進分類法について
9	学校図書館メディアの組織化	件名標目表について
10	学校図書館メディアの組織化	日本目録規則について
11	学校図書館メディアの組織化	目録の機械化について
12	学校図書館メディアの組織化	分類と件名作業の実際
13	多様な学習環境とメディアの配置	学校図書館メディアの配置の意義
14	多様な学習環境とメディアの配置	学校図書館メディアの配置の演習
15	まとめ・確認テスト	学校図書館メディアの構成の展望

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	31403		区分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	読書と豊かな人間性		担当者名	榎川 亨			○		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

読書は人間形成において重要な意味を持つものであり、思考力の育成、豊かな心の育み、人間性の発達にかけがえのない営みでもある。読書という活動は、学習者自身の主体性の有無によって成立する。そのために校内の読書センターと積極的な読書推進活動の展開により、児童・生徒の読書の活性化を図る必要がある。そこで、本授業では、児童・生徒の発達段階に応じた読書指導や活動の在り方と司書教諭の任務について考察し、基本的な指導および活動の方法の体得を目指す。

<授業の到達目標>

1. 読書の目的と役割について理解を深める。 2. 読書指導の基礎や基本について理解を深める。 3. 目的に応じた多様な読書活動について理解を深め、実践力を培う。

<授業の方法>

多様な読書活動に取り組みながら、グループワークメソッドに基づいたケーススタディと全体発表を繰り返す中で、その状況に応じたアドバイスや指導・助言を担当教員が与え、更に、その教員の投げかけに、学生が質問や意見で応じるという実践的な双方向性の演習形式で行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

大学の付属図書館を中心に、岡山市内の各大学や公共図書館において、指定された読書活動に対する調べ学習や図書の選定等の予習（1時間）と、授業後の復習（1時間）を通した学びの深化・発展。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、教員免許を取得している（もしくは、取得予定）者のみに与えられる学校図書館司書教諭のライセンス講座の一つである。よって、児童・生徒の発達段階に応じた読書指導や活動の在り方と司書教諭の任務について考察し、基本的な指導及び活動の方法体得がなされることが、卒業認定や学位授与と密接に関係している。なお本授業は、教育経営学科のディプロマポリシー2「専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている」及び7「子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持つ

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎時間課される振り返りレポート、および、授業参画姿勢（グループワークへの参画姿勢を含む）・発表態度や聴く姿勢など 60%、最終回の学びの確認テスト 40%に基づき評価する。

<教科書>

特になし

<参考書>

監修 日本国語教育学会（平成29年8月15日）
シリーズ国語授業づくり 読書 目的に応じて読む
東洋出版社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション ⇒ 読書の意義と目的、および、心の教育	講義ガイダンス ⇒ 読書と人間形成、読書の習慣形成、読書能力と趣味としての読書
2	ビブリオバトルに向けた準備①	ビブリオバトルへの理解とビブリオバトルに向けた準備①
3	ビブリオバトル①	正式なルールに基づいたビブリオバトルをグループ内で行い、代表者を決め、全体の場で発表する。および、質疑・応答、チャンプ本獲得者の決定。
4	ビブリオバトルに向けた準備②	ビブリオバトル①における反省点や課題を明確化し、ビブリオバトル②に生かすべく準備をする。
5	ビブリオバトル②	正式なルールに基づき①の改善を加えたビブリオバトル②をグループ内で行い、代表者を決め、全体の場で発表する。および、質疑・応答、チャンプ本獲得者の決定。
6	ビブリオバトル③に向けた準備	ビブリオバトル①および②における反省点や課題を明確化し、ビブリオバトル③に生かすべく準備をする。
7	ビブリオバトル③	正式なルールに基づき①②の改善を加えたビブリオバトル③をグループ内で行い、代表者を決め、全体の場で発表する。および、質疑・応答、チャンプ本獲得者の決定。
8	読書活動の様々と活動の意義	読書活動の紹介と実践
9	読書活動の指導と実践	読書記録・味見読書
10	読書活動の指導と実践	読み聞かせ
11	読書活動の指導と実践	ブックトーク（1）
12	読書活動の指導と実践	ブックトーク（2）
13	読書活動の指導と実践	読書へのアニメーション（1）
14	読書活動の指導と実践	読書へのアニメーション（2）
15	学びの確認テスト	読書と豊かな人間性について

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	31402		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	学習指導と学校図書館		担当者名	槇川 亨			○		
配当年次	4	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を持つ学校図書館が果たす役割について学ぶとともに、児童生徒の学力における課題を克服するために学校図書館をどのように活用していくかについて具体的方法を学ぶ。この授業は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

<授業の到達目標>

司書教諭として学校図書館をどのように運営していくかについて、その具体的な方法を理解する。また、学校図書館を活用して行う学習等について、指導者の立場として展開する方法を理解し実践することができる。

<授業の方法>

スライド資料やワークシート等を用いて授業を進める。多くの授業において個人で取り組む演習やグループで取り組むワークショップが中心となるので、主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

学習指導要領を用いる授業の前には、あらかじめ学習指導要領に目を通しておく。（1時間程度）授業後には本時に学習した内容について、問題を解いたり演習の内容について個人で再度行ったりして学習の定着を図る。（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

司書教諭として学校図書館の機能を理解した上で、実際の図書館運営や学校図書館を活用した学習の展開を身につけることにより、学校図書館に関する専門性と実践力を備えた司書教諭の育成を目指す。なお本授業は、教育経営学科のディプロマポリシー2「専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている」及び6「高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている」と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

関心・意欲・態度、演習及びワークショップへの参加と貢献、レポートおよび提出物 50%、テスト 50%に基づき評価を行う。

<教科書>

特になし

<参考書>

学習指導要領

全国学校図書館協議会監修

学校図書館必携 改訂版

悠光堂

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	学校図書館活用教育において展開する学習について概要をつかむ。
2	教育法令と学習指導要領	学校教育にかかる様々な法令と学習指導要領の位置付けを理解する。
3	PISA調査を読む	PISA調査の意義を知るとともに、生徒の調査結果の経年比較から学力上の課題を考える。
4	全国学力学習状況調査を読む	全国学力調査の意義を知るとともに、調査結果から児童生徒の学力の課題について考える。
5	学校図書館と言語活動の充実(1)	言語活動とは何かをイメージするとともに、学校図書館を活用した様々な言語活動について理解する(1)
6	学校図書館と言語活動の充実(2)	言語活動とは何かをイメージするとともに、学校図書館を活用した様々な言語活動について理解する(2)
7	学校図書館と言語活動の充実(3)	言語活動とは何かをイメージするとともに、学校図書館を活用した様々な言語活動について理解する(3)
8	学校図書館活用教育と探求的な学習	探求的な学習の意味と学習においてどのように学校図書館を活用するかについて考える。
9	課題の設定～ウェビング等～	探求的な学習の段階である「課題の設定」の具体的な学習について理解する。
10	情報の収集～参考図書を使う～	辞典や事典、図鑑や年鑑の使い方について理解する。
11	情報の整理・分析～要約学習～	情報の取り出し・整理をする際のスキルとしての要約の仕方を理解する。
12	情報の整理・分析～情報カードを使う～	情報の取り出し・整理をする際のツールである情報カードの使い方理解する。
13	まとめ～発表資料にまとめる～	発表資料として新聞やリーフレット、スライド資料等へのまとめかたを理解する。
14	探求的な学習を創る	これまでの学習をもとに、自分流の探求的な学習の展開を構想する。
15	まとめ	確認テスト。学校における学校図書館活用の現状と課題を理解し、図書館運営の心構えをつくる。

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	32300		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	算数科教育法		担当者名	前田 一誠			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、小学校算数科の指導をする際に求められる様々な能力のなかで、算数科の授業づくりや評価及びそれらの実践に関わる基礎的・基本的な力を身につけることを到達目標とする。そのために、算数教育の目的・目標、算数教育の方法、「A数と計算」「B図形」「C測定・変化と関係」「Dデータの活用」という4つの領域ごとの内容とその指導法、算数教育の評価について講義をする。併せて適宜、算数授業のビデオを用いて授業実践力の理解と育成を目指す。

<授業の到達目標>

①教科書をはじめとする既存教材の意図や展開を把握することができる。②子どもの発達に応じて教材を工夫し、子どもがどのような反応を示すかを具体的に想定した授業を構想し、それらが見えるような指導案を作成することができる。③作成した指導案に基づいて授業を実践する力（評価も含む）基礎的な力を身に付ける。

<授業の方法>

授業の具体を示す資料等（プロジェクター、授業VTR）に基づいて講義を進める。適宜、演習的な課題を課す。課題・レポート（指導案作成など）も課す。タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教材分析、指導案作成、模擬授業などの演習的な課題を課す。予習：算数科の目標、領域・内容構成、教材探索とその分析、発表準備復習：小テスト、まとめのノート、振り返りレポート

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー5（教科の目的・学習内容の理解、基本的かつ現代的な学習指導法の理解と探究）と関連付けられている。子どもの学習状況を把握し、算数科の教科内容を理解した上で、算数教育を実践するための基礎的・基本的素養を育成するための科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

応答などの意欲的な受講 20%、レポート・小テスト 30%、定期試験 50%

<教科書>

編者代表・齋藤昇

『子どもの学びを深める新しい算数科教育法』

<参考書>

文部科学省

「小学校学習指導要領解説 算数編」

東洋館出版社

田中博史他

『ほめて育てる算数言葉 ～算数授業の言語活動を本当の思考力育成につなぐために～』

文溪堂

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	算数教育の今日的課題	学力問題、興味・関心・意欲の向上等
2	算数教育の目的・目標	算数教育の目的・目標の視点と今日の目標
3	算数科の授業づくり (1)	問題解決的な授業づくりの基本と学習指導案
4	算数科の授業づくり (2)	数学的活動のある授業づくり
5	「A数と計算」領域の指導 (1)	整数・小数・分数の指導
6	「A数と計算」領域の指導 (2)	加法・減法の指導
7	「A数と計算」領域の指導 (3)	乗法・除法、概算と見積り指導
8	「A数と計算」領域の指導 (4)	ICT機器を活用した、プログラミング的思考を育むための教材とその活用法
9	「B図形」領域の指導 (1)	平面図形、立体図形の指導
10	「B図形」領域の指導 (2)	角、図形の軽量（面積、体積）の指導
11	「C測定」領域の指導 (1)	長さ、重さ・・・等、量の大きさの比較、量の単位、量の測定の指導
12	「C変化と関係」領域の指導 (2)	変化と関係（速さ、割合、比、比例、反比例・・・）の指導
13	「Dデータの活用」領域の指導	表、グラフ、測定値の平均等の指導
14	算数教育の評価	算数科における評価の目的と方法
15	算数教育の特徴ある授業づくり	構成主義的な授業、オープンエンドな授業等

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	32305		区分	コア科目		実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	理科教育法		担当者名	平松 茂		○			
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校理科の指導と評価の方法を理解し、理科の学習指導案の作成法を学ぶ。具体的には、教科書と学習指導要領解説理科編を見ながら、観察実験を伴う理科の授業を設計して授業実践する方法や留意点を習得する。模擬授業は、4～5人の小グループで1～2つの授業を担当する。グループワークにより、準備した指導案や細案を使って観察・実験を伴う模擬授業を行い、評価したり、改善案をディスカッションしながら、理科の授業実践のための基礎的な知識や技能を身につける。I P U理科マイスター必修。

<授業の到達目標>

1. 理科の指導と評価の方法を理解し、理科の学習指導案を作成して、授業を行う知識技能を身に付ける。2. 指導案の「学習活動」「指導上の留意点及び教師の支援」等の記述に関する知識・技能を習得する。3. 観察実験を伴う模擬授業の準備、実施、評価により授業実践の基礎的な知識や技能を身に付ける。4. 小学校で理科の授業を準備、デザインし、授業が実施できる知識技能を習得する。

<授業の方法>

1. 理科の授業の展開方法と学習指導案作成の基礎を知り、実際に理科学習指導案を作成する。2. 予備実験の後、実験・観察を伴う授業のリハーサルを経て、学生を児童に見立てて模擬授業を行う。3. 模擬授業の実施と児童役はグループワークで進め、模擬授業後は、相互評価したり、改善点をディスカッションしたりする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

小学校理科の教科書「新編新しい理科」第5、6学年の中から単元を選び、児童が観察、実験する具体的な学習内容を把握する。（1時間程度）次に、小学校学習指導要領解説理科編を見ながら、学習の目標、学習内容、活動のねらいや留意点を把握して学習指導案を作成する。4～5名のグループで授業の準備に当たるが、分担された作業をするとともに、予備実験や模擬授業のリハーサルには全員で当たり、誰が指名されても授業を担当できる状態まで練習する。（週2時間程度×3週）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

自然の事物現象の精妙さ、巧妙さに対する鋭い感性を持ち、小学校理科の教科内容を理解した上で授業を構成し実践するための基礎的基本素養を獲得する機会を提供する。発達段階に合わせた問題解決能力を郁資する力量を形成し、教育実習に備える。この科目は教育経営学科のディプロマポリシー5（情報機器や教材の活用を含めた学習指導方法の基本とともに、問題解決に向かう論理的・批判的思考力を身に付けている。）、7（子どもの未来の対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長を目指した生涯学習力を身に付けている。）と関連づけられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲 10%、 実験・観察の技能 10%、 模擬授業 10%、 学習指導案 20%、 定期考査 50% 等で評価する。

<教科書>

毛利 衛・黒田玲子 他（2015. 2. 10）
「新編 新しい理科5」
東京書籍
毛利 衛・黒田玲子 他（2015. 2. 10）
「新編 新しい理科6」
東京書籍
文部科学省（2018. 2. 10）
小学校学習指導要領（平成29年公示）解説理科編
東洋館出版社

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	小学校学習指導要領理科の概要と授業
2	実感を伴う理解のための授業と安全指導	観察実験を伴う授業と安全指導
3	理科における評価の方法	授業の評価、 ループリックの作成と活用
4	学習指導案の構造と作成方法	学習指導案の構造の理解と作成の手順
5	学習指導案の作成	学習指導案作成の実際 予備実験とワークシート
6	模擬授業の方法	学習指導案に基づいた授業展開の方法
7	模擬授業1（2グループ）	学生による模擬授業「小学校理科5年・生命領域」
8	模擬授業2（2グループ）	学生による模擬授業「小学校理科6年・生命領域」
9	模擬授業3（2グループ）	学生による模擬授業「小学校理科5年・地球領域」
10	模擬授業4（2グループ）	学生による模擬授業「小学校理科6年・地球領域」
11	模擬授業5（2グループ）	学生による模擬授業「小学校理科5年・物質領域」
12	模擬授業6（2グループ）	学生による模擬授業「小学校理科6年・物質領域」
13	模擬授業7（2グループ）	学生による模擬授業「小学校理科5年・エネルギー領域」
14	模擬授業8（2グループ）	学生による模擬授業「小学校理科6年・エネルギー領域」
15	まとめ	理科教育の今後の課題

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	32308		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	体育科教育法		担当者名	中西 紘士			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

自分の経験を振り返り、体育という教科に対する思い込みの枠組みを崩しながら、体育という教科の特異性と価値を考え、これからの体育のあり方について探求していく。特に、体育の授業を行う前提となる、体育は何をめざすのか（目標論）、体育は何を教えるのか（内容論）、体育ではいかに教えるのか（方法論）の大きく3つの領域について、実践例を基に講義していく。

<授業の到達目標>

1. 「体育科」の意義や目標を理解し、小学校の体育授業を構成する基礎的知識や基本的な考え方を身に付けることができる。2. これからの体育科の在り方について考え、授業をデザインし、実践できる能力を養う。3. 教科内容に即した教材づくりを行うことができる。

<授業の方法>

1. 小テスト（学習指導要領解説の内容） 2. 講義、演習、実技（教員による解説や学生自身に生まれる本質的な問い） 3. 省察活動（まとめ、発表）グループごとに学習指導案の作成や教材作りに取り組んでもらう。毎回ではないが実技も伴う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書や配付資料等を事前に熟読し、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。学習指導要領に書かれた内容に関する小テストを行う。（毎回1.5時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、パソコンでレポートを作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー5（情報機器や教材の活用を含めた学習指導方法の基本とともに、問題解決に向かう論理的・批判的思考力を身につけている。）と関連付けられています。体育科教育に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実際に授業を行うために必要な教材づくりや授業力につながる思考力、実践力の育成に向けた科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義、グループワークに臨む意欲・姿勢・態度 20%、レポート、指導案 50%、小テスト 30%

<教科書>

文部科学省（平成29年7月）
 小学校学習指導要領〈平成29年度告示〉解説 体育編
 学術図書
 木原成一郎他
 改訂版 初等体育科教育の研究
 学術図書

<参考書>

岩田靖（2012）
 体育の教材を創る
 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と授業の進め方
2	「体育」とはどのような教科か	体育の特異性と体育教師に必要なもの
3	学習指導要領の解説①	学習指導要領の歴史的変遷と社会的背景
4	学習指導要領の解説②	体育の現代的課題
5	学習指導要領の解説③	体育科の目標と内容
6	各領域の特性と授業作りのポイント①	「体づくり運動」領域、「表現運動」領域
7	各領域の特性と授業作りのポイント②	「陸上運動」領域、「器械運動」領域
8	各領域の特性と授業作りのポイント③	「ボール運動」領域、「水泳」領域、「保健」領域
9	体育の教材とは	体育における「教材」の概念の理解、典型教材に学ぶ
10	教材づくり	教科内容と教材の関係からみる教材づくりの方法
11	体育授業の基本的な流れ、評価	45分の授業の基本的な考え方、体育科における評価について
12	指導計画と単元計画	指導計画、単元計画の作成の仕方
13	体育の授業計画の作成	単元構造図の作成と1時間の指導案の作成について
14	体育の授業計画の交流	作成した単元や指導案の交流
15	まとめ	これからの「体育」を考える

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	32312		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	図画工作科教育法		担当者名	村上 尚徳			○		
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、図画工作科の目標、内容、指導法及び評価について理解するとともに、子どもの視点に立った教材開発・カリキュラム編成の理論と方法を習得する。また、グループによる主体的で対話的な深い学びにつながる活動やICTの活用など、指導法の工夫等も取り入れ、最終的には模擬授業の計画、実施を通して、授業を構築し実践する力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

1. 図画工作科における教育目標、育成する資質・能力等を理解し、学習指導要領に示された学習内容について、美術や美術文化などの関連も含めて理解を深めることができる。
2. 学習指導理論や実践例等を踏まえて、子どもの視点に立った教材開発、カリキュラム編成、授業計画の作成、教材機器の活用等と実践方法を習得することができる。

<授業の方法>

1. 資料や事例に基づく講義と協議
2. 表現や鑑賞の体験を基にした学習指導要領における位置付け等の理解。
3. グループによる模擬授業の検討、教材作成、授業の実施、及び全体協議。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前は、指示された資料を事前に予習したり、準備物（材料、用具等）を準備したりすること（1時間程度）。授業後は、配布された資料を復習したり、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること（1時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマ・ポリシー5（情報機器や教材の活用を含めた学習指導方法の基本とともに、問題解決に向かう論理的・批判的思考力を身に付けている。）と関連付けられています。図画工作科の教科内容等を理解した上で、子どもの発達等の理解に基づいて授業を構成し実践するための授業力を育成することを目指しています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 40%、 作品及びレポート 40%、 授業への積極的参加態度 20%

<教科書>

文部科学省（2018）

「小学校学習指導要領解説図画工作編」

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	図画工作科の意義	図画工作科の意義と課題
2	教科の目標と内容の概要	学習指導要領の構成と内容の理解
3	材料をもとにした造形遊び(1)	グループ製作
4	材料をもとにした造形遊び(2)	「材料を基にした造形遊び」の理解
5	絵や立体、工作に表す(1)	子どもの発達と絵
6	絵や立体、工作に表す(2)	絵に関する作品製作
7	絵や立体、工作に表す(3)	「絵や立体、工作に表す」の理解
8	鑑賞	「鑑賞」の理解と対話による学び
9	カリキュラムと授業の構想、評価	学習指導と評価
10	学習指導案の理解	学習指導案の書き方
11	教材研究	題材開発、機器の利用、学習指導案の作成
12	模擬授業(1)	模擬授業の実施と協議(グループ1)
13	模擬授業(2)	模擬授業の実施と協議(グループ2)
14	模擬授業(3)	模擬授業の実施と協議(グループ3)
15	図画工作科で育成する資質・能力と授業の具体について	まとめ

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	53013		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	学校支援ボランティア		担当者名	大野 光二			○		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校支援ボランティアとは、学校の教育活動について地域の教育力を生かすため、保護者や地域の人々等がボランティアとして学校をサポートする取り組みであり、近年は学校支援ボランティアとして学生も学校に入り、学習支援等を行っている。ここでは、小・中学校等で行われている学校支援ボランティアの様子を紹介したり、地域の小・中学校に学校支援ボランティアとして入り活動を行ったりすることで、学校支援ボランティアの実際について学ぶ。

<授業の到達目標>

学校支援ボランティアに必要な知識や技能、態度などを身につけ、将来教師として子どもにかかわるための指導力を培うことができるようにする。

<授業の方法>

この授業は、前期および後期の年2回開講し、いずれかを履修することができる。学校支援ボランティアについての講義と、期間中に5回以上延べ15時間の学校支援ボランティアに赴く。ボランティア活動は、通常の授業時間ではなく、学校と都合のよい時間帯を相談の上実施する。活動の記録を日誌として残し、成果と課題をレポートにまとめて最後に発表する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習ボランティアの募集説明会に参加すること、所定の時間ボランティアに行くことが単位取得の必須条件である。予習:事前に学校と十分打ち合わせをした上でボランティアに臨むこと。また、その日のボランティアを通して何を学ぶのかということを確認しておくこと。(30分程度)復習:学校にボランティアに行った日は、活動内容と時間数及びその日の成果や課題となったことを振り返り、記録に残しておくこと。(1時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

学校支援ボランティアの在り方について学び、学校に出かけ児童・生徒の学習面や生活面での支援や指導を行うことを通して、教育経営学科のディプロマポリシーの7(子どもの未来に対する強い使命感と責任を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている。)を養うための科目である。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ボランティア活動への取組みの様子 40%、レポート及び発表の内容 60%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学校支援ボランティアとは	学校支援ボランティアの目的、活動内容等
2	学校支援ボランティアの申し込み	岡山市等の学校支援ボランティアの募集説明会、申し込み手続き等
3	学校支援ボランティアの実際	学校支援ボランティアの具体例、先輩の体験発表等
4	学校支援ボランティアの実習(1)	近隣の小・中学校等でのボランティア活動
5	学校支援ボランティアの実習(2)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
6	学校支援ボランティアの実習(3)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
7	学校支援ボランティアの実習(4)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
8	学校支援ボランティアの実習(5)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
9	学校支援ボランティアの実習(6)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
10	学校支援ボランティアの実習(7)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
11	学校支援ボランティアの実習(8)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
12	学校支援ボランティアの実習(9)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
13	学校支援ボランティアの実習(10)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
14	学校支援ボランティアのまとめ(1)	学校支援ボランティアの実習について学んだことを各自レポートにまとめる。
15	学校支援ボランティアのまとめ(2)	レポートの内容を発表し、成果と課題を共有する。

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	51009		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育実習事前・事後指導(小学校)		担当者名	前田 一誠			○		
配当年次	3	配当学期	通年	単位数	1	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育実習の意義と目的について理解を深め、教育実習生としての心構えを養う。教育実習に向けて、教科学習の授業力向上を図る。教育実習の成果と課題を自己評価し、教職を志す者としての資質を向上させる。

<授業の到達目標>

教育実習の意義と目的について理解を深め、教育実習生としての心構えを養う。教育実習に向けて、教科学習の授業力向上を図る。教育実習の成果と課題を自己評価し、教職を志す者としての資質を向上させる。

<授業の方法>

講義、指導案作成、模擬授業の準備、実施とその検討、実習録をもとにしたふりかえり

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

模擬授業を行う教科・単元に関する資料を収集し、熟読しておく。模擬授業までに、担当教諭に事前指導を受ける。その際、学習指導案も作成しておく。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

教育実習を通して、教育実践の中で現代の教育課題に取り組み、解決できる能力を養う。グローバル社会に対応できる総合的な実践力を育むための科目である。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

模擬授業の準備（事前指導に取り組む姿勢と態度、学習指導案の作成、教材・教具の準備・・・等）、模擬授業の成績、レポートによって判断する。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	教育実習の意義と心構え	
2	教育実習の進め方	
3	研究授業（模擬授業）の方法（1）	教材分析、教科書・補助教材の使い方、板書の仕方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
4	研究授業（模擬授業）の方法（2）	教材分析、教科書・補助教材の使い方、板書の仕方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
5	研究授業（模擬授業）の方法（3）	教材分析、教科書・補助教材の使い方、板書の仕方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
6	研究授業（模擬授業）の方法（4）	教師の言葉遣い、話し方、きき方、机間指導※15～20人程度のグループに分かれて行う。
7	研究授業（模擬授業）の方法（5）	教師の言葉遣い、話し方、きき方、机間指導※15～20人程度のグループに分かれて行う。
8	研究授業（模擬授業）の方法（6）	教師の言葉遣い、話し方、きき方、机間指導※15～20人程度のグループに分かれて行う。
9	研究授業（模擬授業）の方法（7）	個別学習、グループ学習の進め方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
10	研究授業（模擬授業）の方法（8）	個別学習、グループ学習の進め方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
11	研究授業（模擬授業）の方法（9）	授業のまとめの仕方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
12	研究授業（模擬授業）の方法（10）	ノート、学習プリント（ワークシート）のつくり方と活用の仕方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
13	研究授業（模擬授業）の方法（11）	評価について※15～20人程度のグループに分かれて行う。
14	教育実習における表現教育の位置づけ方	児童とのコミュニケーション手段の1つとして、表現活動の設定の仕方を理解する。
15	教育実習のふり返り	教育実習録をもとに、実習の成果と課題を明らかにする。【事後指導】

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	53011		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教職実践演習(小学校)		担当者名	前田 一誠			○		
配当年次	4	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、教職課程等での講義及び介護体験・教育実習等で身につけた力を総合し、教師に求められる使命感や教育的愛情・人権感覚などの人間性を一層培うために、教職に就く学生の最終授業である。授業概要としては、教員に求められる共通的な資質能力及び実践的指導力の向上を図る。そのために現在までに学んだ教育理論や実習体験等を整理し、履修カルテを最大限に活用することで自分自身の弱点を補完することを目標とした授業であるので、全ての授業に参加することが最低の目標でもある。

<授業の到達目標>

児童に深い愛情を持ち適切な人間関係を築くことができるコミュニケーション能力、発達段階に応じた各教科及び領域の指導力、生徒指導力を最終学年において確かなものとするを到達目標とする。

<授業の方法>

講義やロールプレイ、小グループでの討論に時間をかけ、実践的指導力の向上を図るために、演習形式による学生と教員の双方向での授業展開を行いたい。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

理解度を深めるために、授業計画のテーマに基づき、1年から4年前期までに使用した教科書・レジメ・実習ノートなどを活用して、自分の考えをまとめておくこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席、活動・学習の状況、課題等を総合評価する。欠席は特別な理由がない限り認めない。公欠も含めて事前に欠席に連絡をすること。ルールに違反した場合は、単位の修得ができず、免許を取得できなくなる。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	ガイダンス
2	学校教育について(1)	学級経営
3	学校教育について(2)	教員資質能力向上
4	学校教育について(3)	児童指導など
5	子どもについての理解(1)	学級づくりのコツ(1)
6	子どもについての理解(2)	学級づくりのコツ(2)
7	子どもについての理解(3)	不登校・特別支援を要する児童生徒の支援・援助など
8	教育実践(1)	授業を創るということ A (各教科指導)
9	教育実践(2)	授業を創るということ B (各教科指導)
10	教育実践(3)	授業を創るということ C (各教科指導)
11	他者との協力・コミュニケーション(1)	支援ボランティアについて
12	他者との協力・コミュニケーション(2)	気持ちに寄りそう場面指導
13	保護者との協力関係づくりについて	保護者との協力関係づくりについて
14	表現教育	表現教育
15	まとめ	まとめ